

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

<火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続>

霧島山（新燃岳）では、本日（3日）08時41分に噴火が発生し、噴煙は火口縁上 3,000mまで上がりました。この噴火に伴い気象庁は降灰予報を発表しました。本日実施した聞き取り調査では、この噴火による降灰は主に新燃岳火口から東方向に分布しました。

【防災上の警戒事項等】

新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、風に流されて直径 4 cm 程度の小さな噴石（火山れき）が新燃岳火口から 10km を超えて降りました。

また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。

降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に注意してください。

○活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図 1）

本日（3日）08時41分に噴火が発生しました。灰白色の噴煙が火口縁上 3,000mまで上がり、東に流れました。この噴火により遠望カメラでは、火口周辺に大きな噴石が飛散するのを確認しました。火砕流は観測されませんでした。噴火の発生は3月29日以来です。

・聞き取り調査による降灰の状況（図 2）

本日、鹿児島地方气象台及び宮崎地方气象台が実施した聞き取り調査では、噴火に伴う降灰の範囲は、主に新燃岳火口から東方向に分布し日向灘にまで達していました。

・地震や微動の発生状況（図 3）

本日 08 時 41 分の噴火に伴い発生した火山性微動は 09 時 06 分に終了しました。

火山性地震は、1 日から 3 日にかけて多い状態です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号 平 20 業使、第 385 号)。

・地殻変動の状況（図 4）

高千穂河原及び湯之野観測点の傾斜計では、この噴火に先行して 4 月 1 日 07 時頃から新燃岳側が隆起する変化が観測されていましたが、噴火に伴い沈降に転じ、隆起変化以前の状態に戻りました。これまでも、噴火が発生した前後に、このような変化が認められる事例もありましたが、傾斜変化を伴わずに噴火が発生する場合や、傾斜変動が認められても噴火が発生しない事例もあります。

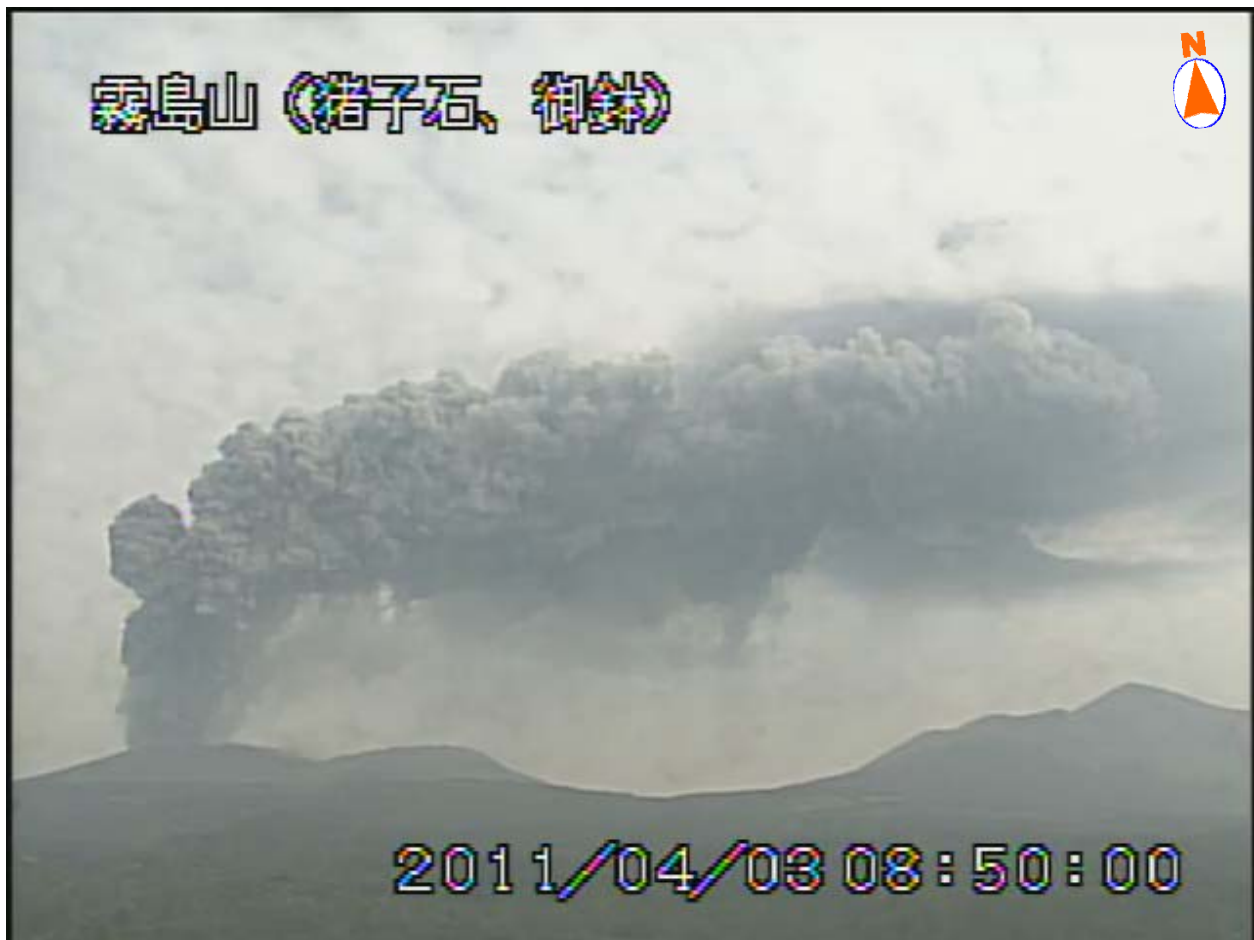


図 1 霧島山（新燃岳） 本日 08 時 41 分に発生した噴火の様子
噴煙は火口縁上 3,000m に達し、東へ流れました。

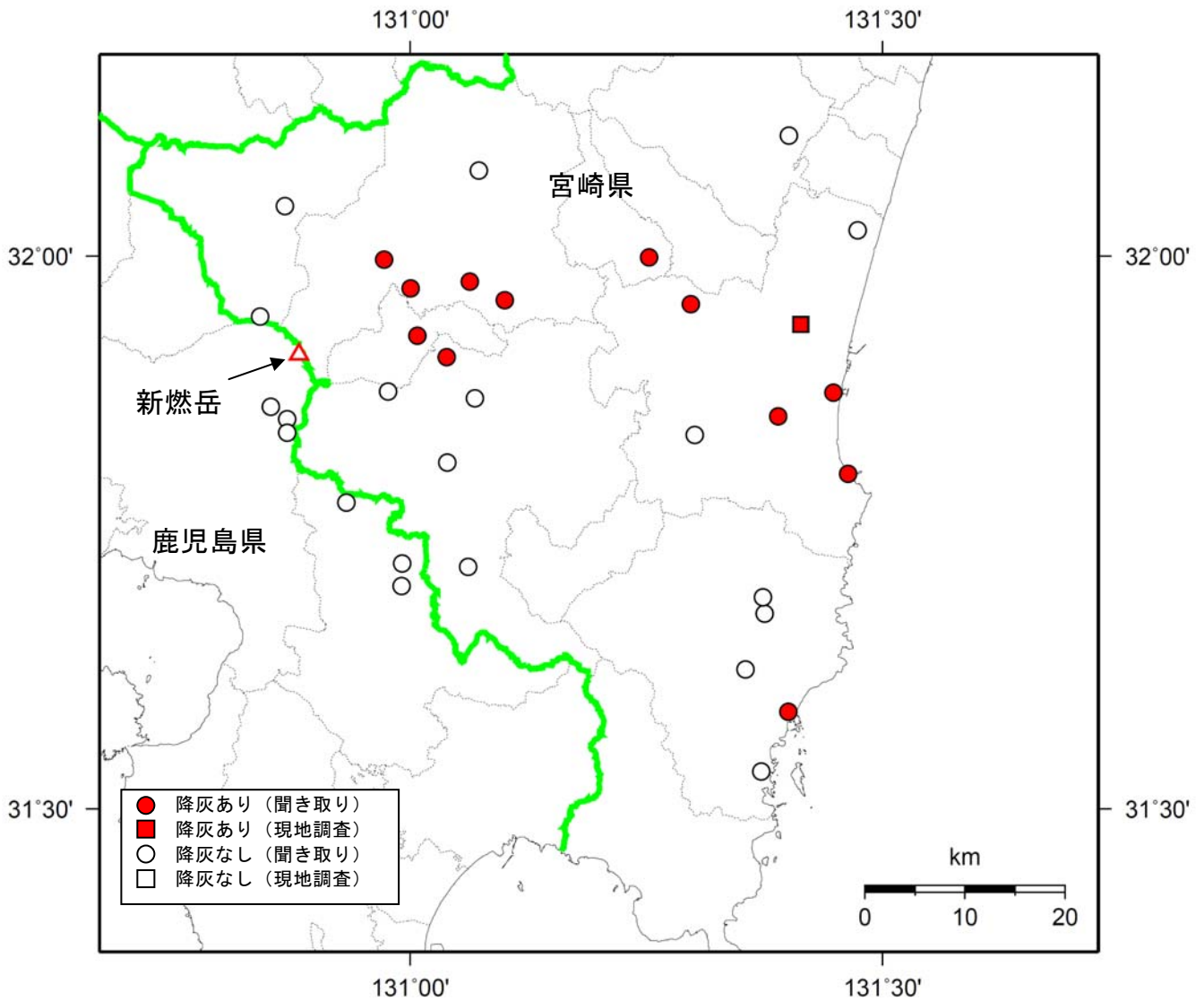


図2 霧島山（新燃岳） 噴火に伴う降灰の調査状況図

本日の噴火に伴う降灰の範囲は、主に新燃岳火口から東方向に分布し日向灘にまで達していました。

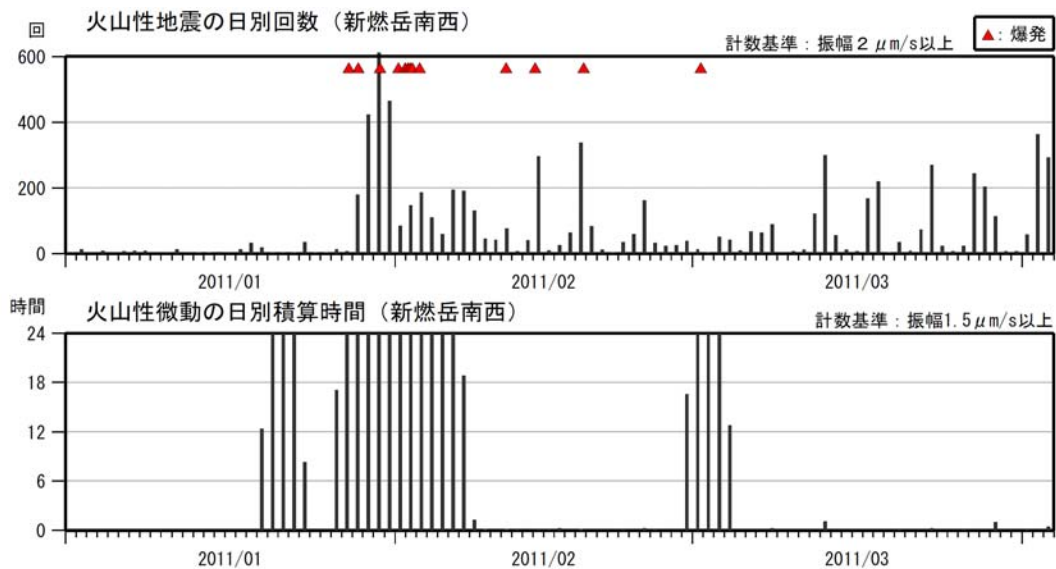


図3 霧島山 火山性地震の日別回数・火山性微動の日別積算時間速報値

(2011年1月1日～4月3日13時)

- ・ 本日08時41分の噴火に伴い発生した火山性微動は09時06分に終了しました。
- ・ 火山性地震は、1日から3日にかけて多い状態です。

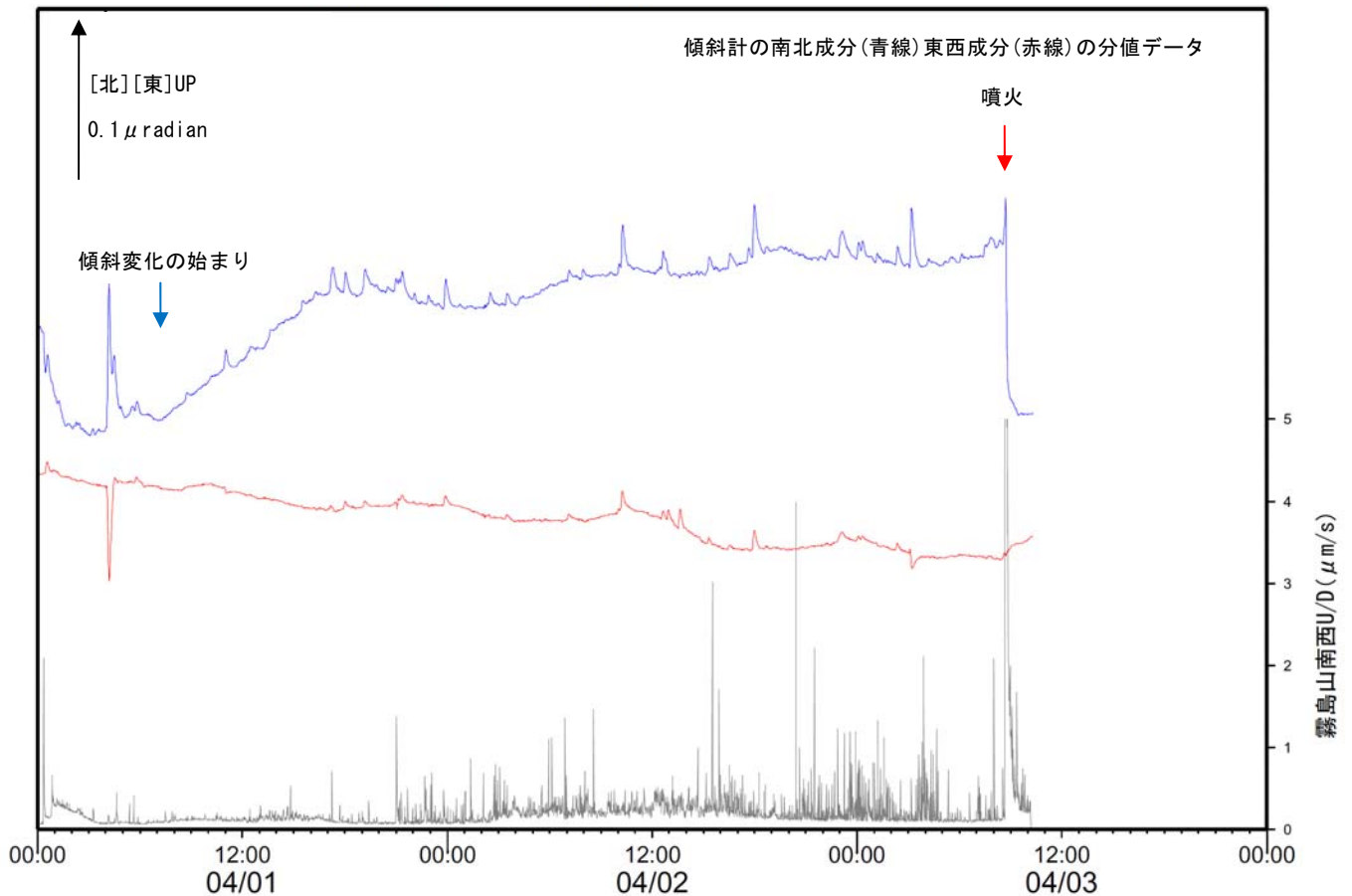


図 4 霧島山(新燃岳) 高千穂河原観測点傾斜計(南北成分、東西成分)および霧島山南西観測点地震計(上下動)の時間変化(1日00時~3日10時)

高千穂河原観測点の傾斜計では、4月1日07時頃から始まった新燃岳側隆起の変化は3日08時41分の噴火に伴い沈降に転じ、隆起変化以前の状態に戻りました。これまでも、噴火が発生した前後に、このような変化が認められる事例もありましたが、傾斜変化を伴わずに噴火が発生する場合や、傾斜変動が認められても噴火が発生しない事例もあります。